

「四季・植物」 10 片栗

学名 Erythronium japonicum Decne.

ユリ科の球根性多年草

名前の由来については様々な説があり、はっきりしない。古名「^{かたくり}堅香子」

郷土資料から見た^{かたくり}片栗のあれこれ

「雪が消えはじめた頃になると、木の下に一面に花を咲かせる。その可憐な花が春を告げてくれる」（「柏崎の植物」）とあるように、片栗は春の代表的な花の一つである。

「カタクリ」は春の季語として知られており、「もののふの八十^{やそ}をとめらが汲みまがふ 寺井の上の堅香子の花」と大伴家持が万葉集に詠んでいる。だがその「堅香子」は実は片栗ではなく、同じユリ科のコバイモという説もある。

球根からとれる良質のデンプンが「かたくり粉」であるが、現在「かたくり粉」と称して販売されているもののほとんどはジャガイモのデンプンで、本物の「かたくり粉」は生産が少なく高価である。

柏崎では柔らかい茎・花・葉をゆで、おひたしやあえもの、酢の物などにして食べる。多く食べると人によってはお腹をこわすこともある。植物に方言名があるのは、人の暮らしと密接な関係を持っていた証明であるというが、柏崎での片栗の方言名は「かたこ」「おんなかたこ」である。

発芽から開花まで約8年かかる成長の遅い植物であり、現在は乱獲によって少なくなりつつある。

参考資料

「図説 樹と花の大事典」	植物文化研究会・雅麗編	1996	「草木花歳時記 春」	朝日新聞社発行	1999
「日本大百科全書」	小学館発行	1994	「柏崎・刈羽の山野草」	柏崎植物友の会発行	1986
「野草大百科」	北隆館発行	1992	「柏崎の植物」	柏崎市教育委員会編	1981
「原色牧野和漢薬草大図鑑」	北隆館発行	1988	「柏崎市史史料しゅう民俗篇」	柏崎市史編さん委員会編	1986